

## 新しいことを始めるとき 一緒に一段上に登る方法を考えましょう



ふな はし まさ ひろ  
舟橋正浩さん(34歳・藤井町)

三鷹SOHO倶楽部主催「第1回日本SOHO大賞」を受賞。現在は、本業の企業コンサルタントを行う一方、市民活動センタースタッフとしても活動中。北海道出身。

生まれは北海道旭川市で、結婚を機に妻の実家がある安城にやってきました。それまでIT関連の会社勤めなどを経験してきましたが、「自分にふさわしい働き方」と「子どもとの関わり」を追求していった結果、いつのまにかSOHOというスタイルにたどり着きました。

SOHOとは、自宅や郊外の小さな事務所、ネットワークなどを利用して仕事をするもので「スモールオフィス・ホームオフィス」の略と一般的に言われています。

そこで、子どもの面倒を見ながら自宅で働く方法を模索するうちにSOHOスタイルで起業することになりました。本業は企業コンサルタントで旭川市と安城市の自宅に事務所を構えてい

ます。新規事業を立ち上げようとする際のアドバイスや組み立てなどのお手伝いを全国の皆さんを対象に行っています。現状から一段上に登る方法を一緒に考える、それがわたしの仕事です。出張などの仕事がなく自宅にいる間はまさに主夫。朝、子どもを送り出し、掃除、洗濯、買い物などの家事をします。この合間を縫って書類を作ったりリサーチしたり。夕方子どもを迎えに行くと、風呂に入れる、遊ぶ、夕食を食べさせる、寝付かせる、そんな1日です。(ただし、出張のときは妻や義父母、親類に面倒を見てもらっています)

こんな生活がなぜか三鷹SOHO倶楽部に評価され「日本SOHO大賞」をいただくことになりました。

その一方で、新しいことを始める際のコンサルタントという仕事柄、ご縁があって2年ほど前から市民活動センターのスタッフとしてお手伝いさせていただいています。NPOを立ち上げたいとか、どのように運用していけばいいかと考える場合も、わたしの持っている知識やノウハウがお役に立てばと思いますので、ぜひご相談ください。こうしたスタイルでいろいろ活動をしているすべての根本は、自分の子どもに対して良い社会を残したいという思いからです。でも人間は社会的な生き物なので、自分の子どもだけ幸せというのはありえません。すると自分の子どもも友だちも、その親も、その親の会社も、どんどん拡大していき、少しでも社会全体が幸せであってほしいと願うようになりました。それがわたしのコンサルティングやそのほかの活動の基本になっていますね。

### 筆者のつぶやき

インターネットで「舟橋正浩」という名を検索すると、たくさん項目が列挙されます。その数を見ただけでも、いかに多方面で多才な活躍をしているかがわかります。ここでは紹介しきれないほど広がる一方の活動。しかし、その原点は子どもへの愛情と社会をよくしたいという純真な気持ち。話を伺っていてそれを痛感しました。



その35

## 東海道の「一里塚」と「助さん」「格さん」



★一里塚跡と「助さん」「格さん」  
(尾崎町・宇頭茶屋町)



今月の案内人  
加藤智妙さん・徳昌さん  
(宇頭茶屋町)



東海道は、江戸と京都を結ぶ街道で、徳川家康が全国を統一すると、宿場を整えたり、一里塚や松並木を作ったりして一層整備されました。旧東海道を柿崎町から西に向かって歩くと、尾崎町の熊野神社の一角に一里塚跡の石碑があります。江戸幕府が江戸日本橋を起点として全国の街道に一里(約4キロメートル)ごとに塚を築いたものです。塚はおよそ9四方の土地に4層ほどの土を盛

り上げ、松や榎を植えてあり、旅人はこれを目安に旅をしました。尾崎町にあった一里塚は日本橋から旧東海道を歩いて83里目にあたりです。

再び歩き、しばらくすると妙教寺前に二本の松がそびえ立っています。その立ち並ぶ姿から、以前、志貴小学校の子どもたちがそれぞれの松に「助さん」「格さん」と名づけ、その

札がかけられています。街道の松並木は、夏は緑の陰を作り、冬は風雪を防ぐのに役立ち、また、旅行く

人々に風情を添えました。今では松の数も減り、ここも「助さん」「格さん」が残っているだけです。

安城市域は、池鯉鮒宿(現在の知立)と岡崎宿の間にあたるため宿場

がありませんでした。現在の浜屋町や宇頭茶屋町の街道沿いは「間の宿」と呼ばれ、茶屋(休憩所)などが軒を並べ、にぎやかだったようです。ただ、街道はずれると、かつてこの一帯はキツネやタヌキの住む松や雑木の原野でした。祖母から「年忌の帰りにキツネに化かされた。風呂に入ったら肥だめだった」というような昔話を聞いたこともあり、そんな往時の様子を、今では想像することも難しいですが、この「助さん」「格さん」の松は、江戸時代に東海道を旅する人々やキツネに化かされた人々、そして現在の私たちがずっと見守り続けてきたのです。



妙教寺の昔の様子(当時は志貴教会)。東海道の松並木と家々のたたずまいが偲ばれる。